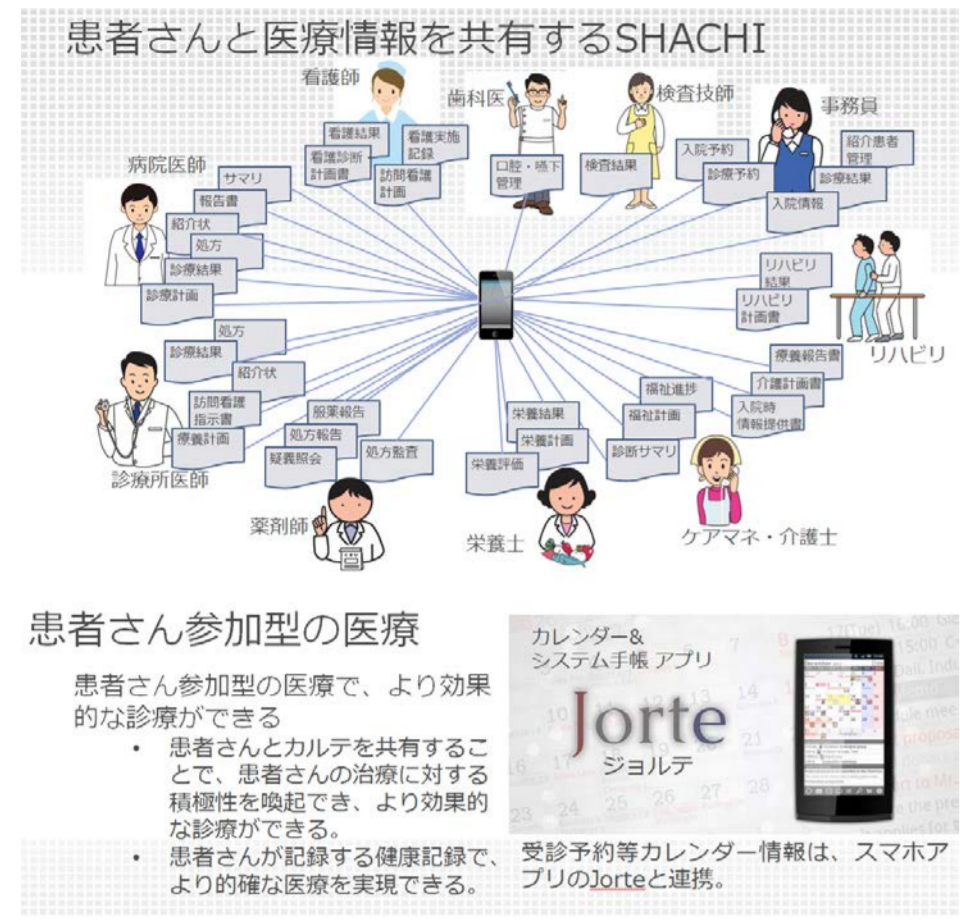


# 患者中心の医療を推進する情報システムSHACHI

○藤田伸輔<sup>1)</sup>、小川真司<sup>2)</sup>、土井俊祐<sup>2)</sup>、井出博生<sup>2)</sup>、竹内公一<sup>2)</sup>、木暮みどり<sup>2)</sup>、葛田衣重<sup>2)</sup>、加瀬千鶴<sup>2)</sup>、  
1) 千葉大学予防医学センター、2) 千葉大学医学部附属病院



## バックグラウンド



- 1943 ビバレッジ報告:プライマリ・ケアの重視
- 1950 「患者中心の医療」の提唱
- 1980 医学教育で「患者中心の医療」を教え始める
- 1987 ICPCの誕生

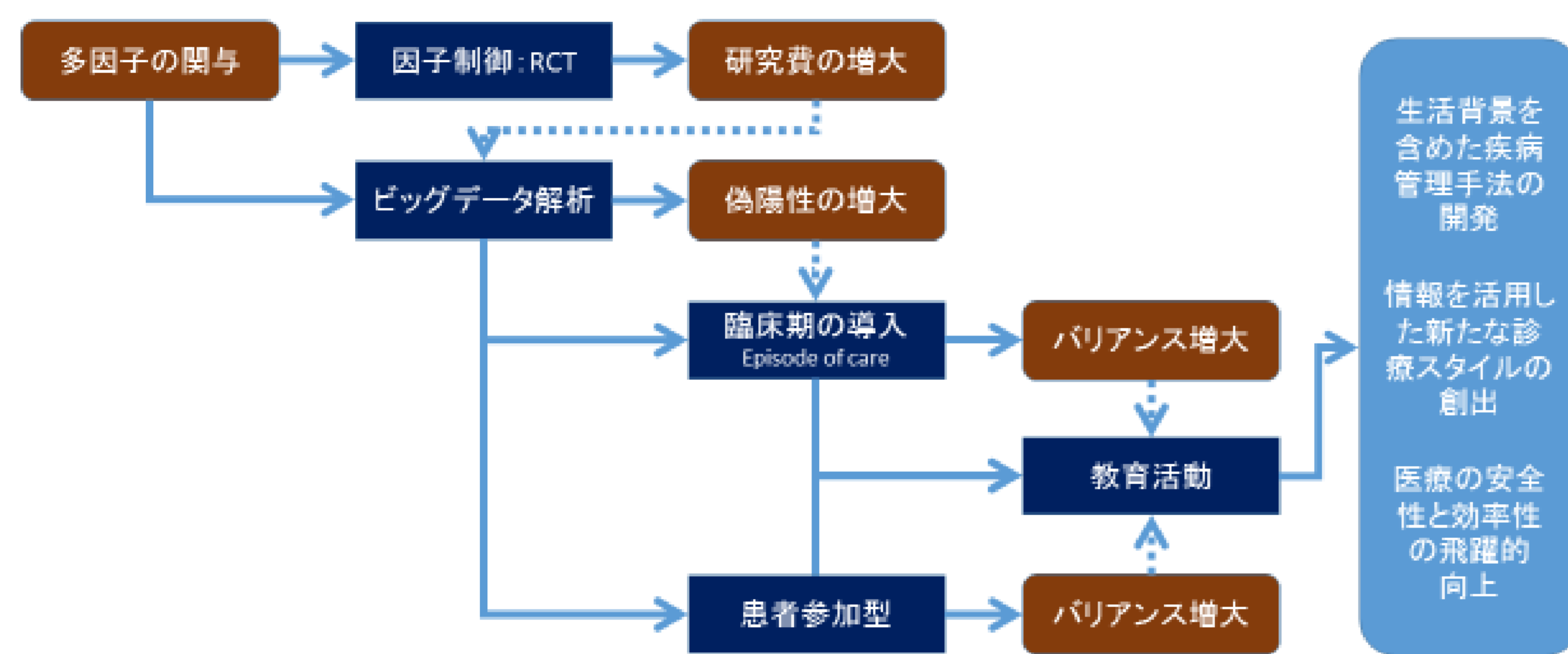
Moira Stewartらが提唱する患者中心の医療

- 1) 健康・傷病についての患者の考えや経験の理解
- 2) 患者の心情・信念・経済状況などの理解
- 3) 医療者と患者の共通認識の設定
- 4) 医療者と患者の関係性の構築



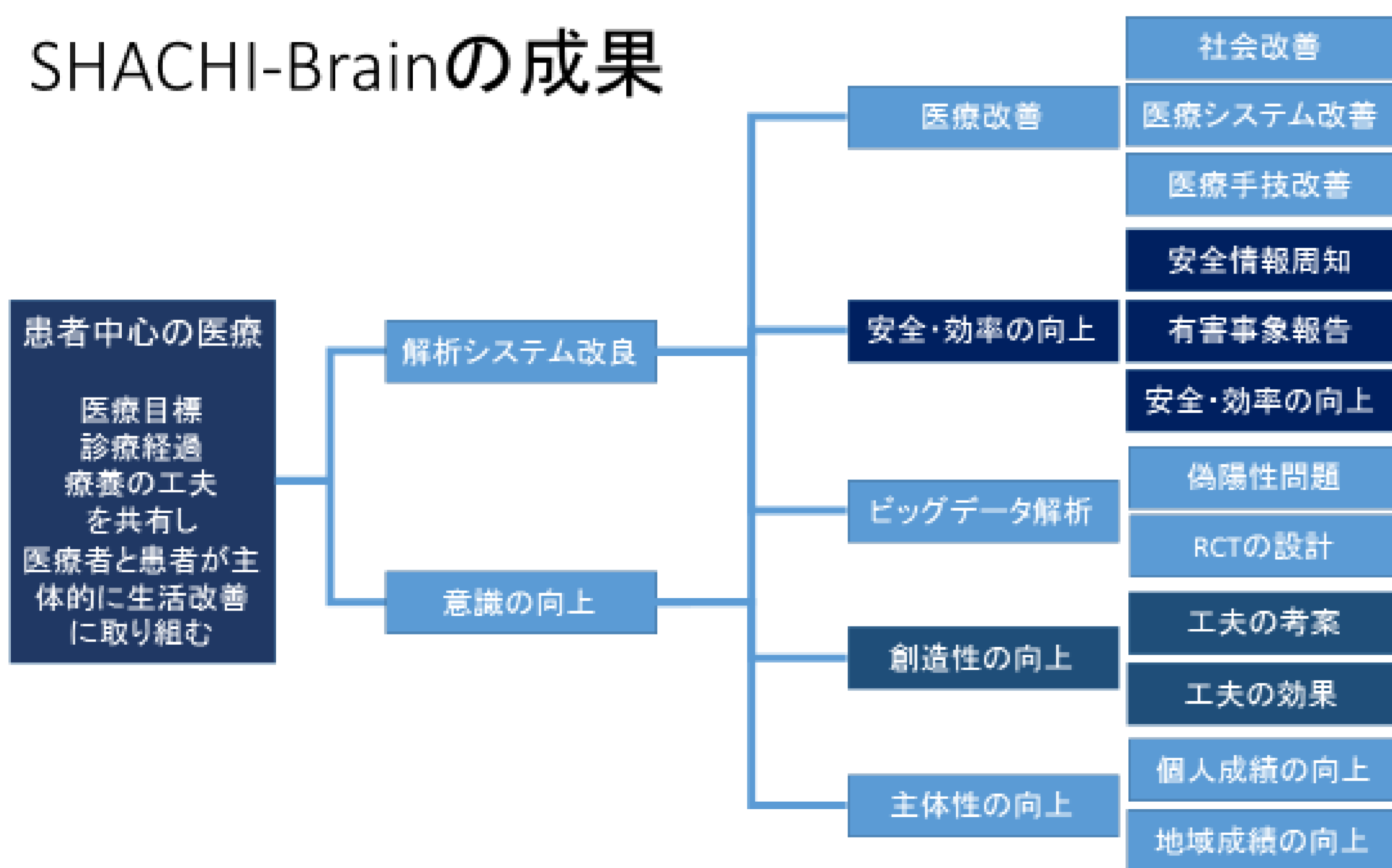
長期間の交流が必要  
生活・人生のバックグラウンドの理解  
多彩な職種とボランティアの動員  
豊富なデータを提供  
わかりやすい説明の提供

## SHACHI-Brain開発のバックグラウンド



RCTからビッグデータ解析に比重を移す  
データ量の増大による偽陽性の克服  
臨床病期や生活背景の配慮

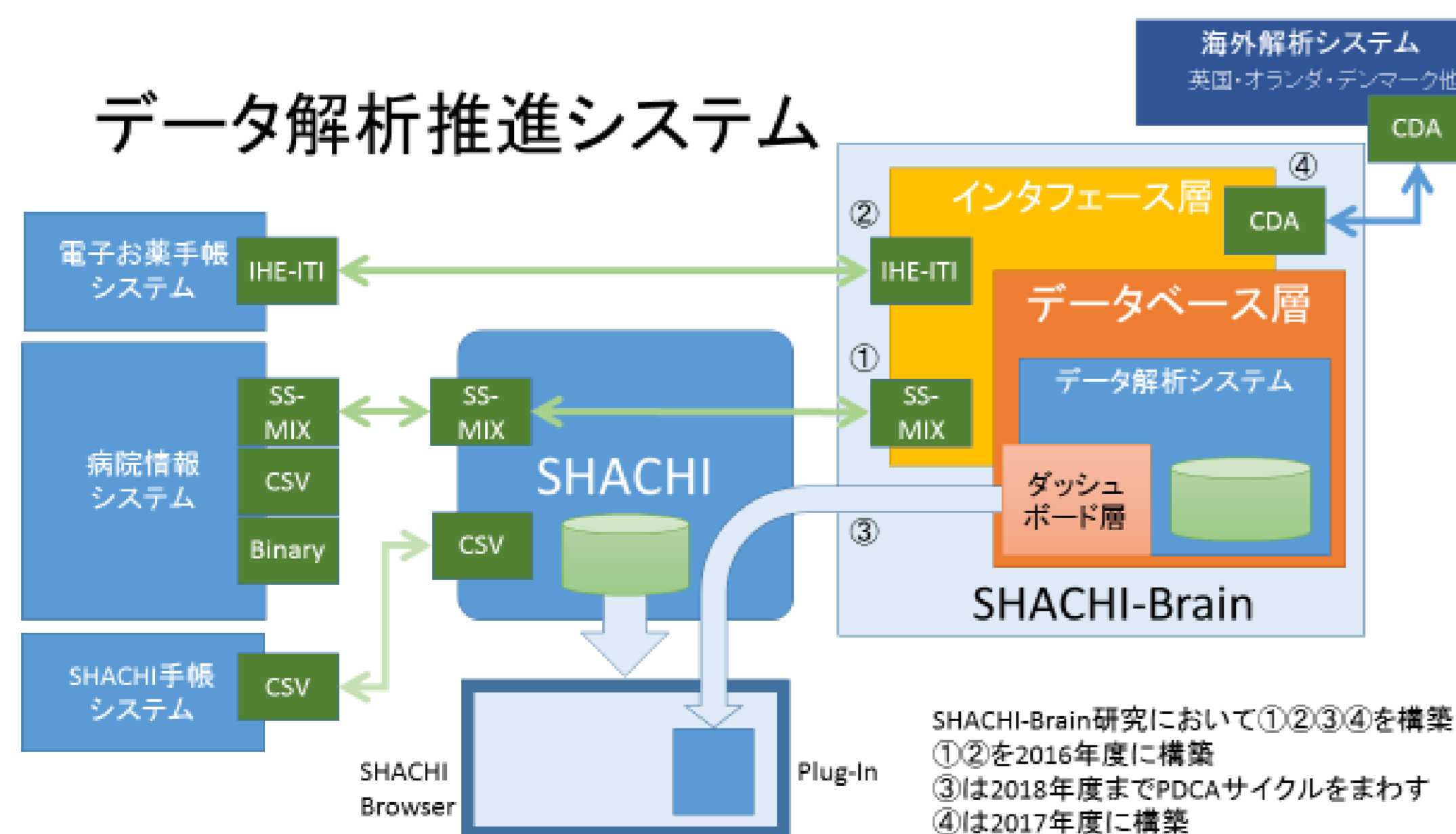
## SHACHI-Brainの成果



SHACHIが目指す患者中心の医療とは

1. 医療者と患者が同じ診療目標を持つ
2. 患者自身が疾病・健康管理を積極的に行う
  1. 食事の工夫
  2. 運動の工夫
  3. 服薬の工夫
3. 工夫の成果を可視化
  1. 同一疾患・病態・介入の成績と比較
  2. 予想される効果(これまでの予後)との比較
  3. 地域毎の疾病発生状況の提示
  4. 時間的な疾病発生状況の提示
4. 医療安全への配慮
  1. 有害事象の検知
  2. 同様の事象の探索
  3. 有害にいたっていない事象の探索
5. 診療のガイドライン提案
  1. 複数疾患併発時の提案
  2. 他国のガイドラインとの比較

## データ解析推進システム



1. SS-MIXなどからデータを取得
2. 匿名化してデータベースへ格納
3. データキューブを作成
4. ダッシュボードデータを保存
5. ブラウザのプラグインとして提供

## ダッシュボードコンテンツ

**事前・事後確率**

- 愁訴に対する診断確率
- 疾病に対する診療介入確率
- 投薬に対する効果確率
- 投薬に対する副作用確率

**統計情報**

- 愁訴の地域発現状況
- 疾病の地域発現状況
- 投薬の地域実施状況
- 医療介入の地域実施状況

**ビッグデータ解析**

- テキストマイニングによる環境情報と疾病・診療介入の相関
- 臨床期に基づく医療・介護・生活支援と疾病管理の相関分析
- 地理的解析による疾病・診療介入の分布

**Dashboard Plug-In**

病状推移

事前・事後確率

統計情報

ビッグデータ解析

## 医療機関紹介状連携



**結語** 患者中心の医療とは患者の意欲を引き出す医療であるべき  
目標を共有し、プロセスを理解し、結果を可視化する  
世界中の知識を動員すべき